

# 1 講 評

## ①第三者評価機関名

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

## ②施設名等

名称	: 道心園西ホーム	種別	: 児童養護施設
施設長氏名	: 横田 直和	定員	: 50名
所在地	: 茨城県土浦市並木3-18-5	TEL	: 029-821-2575

## ③実施調査日

平成26年1月10日 ~ 平成27年3月30日

## ④総評

### ◇特に評価が高い点

法人の基本理念である「道心」を、子どもたちにわかりやすい具体的な指導目標として「素直な心」や「感謝の心」、「奉仕の心」の3点とし、子どもの日々の指導に取り組んでいる。

地域の人たちや施設のOB、保護者を招いてクリスマスの集いを開催したり、廃品回収や地域の子供会活動、公民館活動へ参加している。

家庭との連携として毎月23日を「ふみの日」と定め、手紙や電話で家族と連絡をとり、担当職員は施設での生活など児童の成長を知らせて子育てへの参加を促し、面会や外泊の実施、学校や施設の行事への参加を呼びかけている。

子どもの希望に合わせた活動を行っており、スポーツを通して心身の鍛錬に努め、野球指導は年間を通して行い、ドッジボール、サッカー、マラソン、西ホームキャンプなどを実施している。

子どもの自治会を開催し、各寮の高校生を中心に施設のルールづくりや行事等について話し合っている。

給食に関する嗜好調査や施設の生活についての意識調査を年2回実施し、子ども達の意見や要望を取り入れた運営をしている。

### ◇改善が求められる点

部屋は年齢や学年の差を考慮して横割りになっているが、4人部屋や2人部屋のため、1人になりたい時の配慮や安全・安心の居場所づくりに工夫することを期待します。

常に成長の振り返りができ、子どもと一緒に見ることができるよう、成長アルバムが整理されることを期待します。

暴力的行為をする子どもがおり、建具の損傷や未修理部分が見受けられる。暴力でなく言葉で話し合い、解決に導くことや、大きい子どもが小さい子どもを力で抑えるのではなく、やさしさをもって接することを指導していくことを期待します。

「壊れた物は自分の責任のもとで弁償する」ということになっているが、ものの大切さやお金の価値観などを常に話し合い、理解させることを期待します。

## ⑥第三者評価結果に対する施設のコメント

子どもたちの生活環境の改善に向けて努力していき、常に安心・安全な暮らしを目指していきたい。生い立ちの整理については、一人一人の成長を職員と共に振り返ることができるよう支援していきたい。

大きい子から小さい子への圧力をなくすために職員が優しさを持って接するよう努力していきたい。

## ⑦第三者評価結果(別紙)

(別紙)

## 第三者評価結果

### 1 養育支援

(1)養育・支援の基本	第三者評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	b
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保証している。	b
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どもの発達に応じて遊びを提供をしたり、幼稚園の就園など施設外での教育を受ける機会を設けている。</p> <p>職員は子どもと個別的な関わりを持つ時間を多く設け、子どもの気持ちに寄り添いながら本音で向き合い、自分の弱い部分も見せながら、子どもと共感しながら共に成長していくように努めている。</p> <p>日常生活の中で基本的な欲求が満たされるよう養育・支援をしたり、子どもが自らの判断で行動ができるよう見守りをしてしている。</p> <p>子どもが表出する感情や言動だけではなく、その理由や背景を理解し、さらに子どもの気持ちを汲み取るように努めることを期待します。</p>	
(2)食生活	第三者評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
(3)衣生活	第三者評価結果
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
(4)住生活	第三者評価結果
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>食事を通してマナーを身に付けさせ、嫌いな料理は無理のないよう指導するとともに、体調に合わせた食事を提供している。</p> <p>嗜好調査や残食調査の結果を反映した食事を提供したり、中学生や高校生を対象に食材の購入の機会を設けたり、調理実習を実施したりして、社会への自立に向けた支援をしている。</p> <p>職員と子どもが同じ食卓を囲み、楽しく会話をしながら食事を摂っている。</p> <p>衣類の買い物は担当職員と一緒に出かけ、好みを聞きながらアドバイスをを行い、季節に合った服装が出来るように支援をしている</p> <p>職員は子どもと一緒に整理整頓をしたり、室内の清潔を保つなど、掃除等の習慣が身に付くようにしている。</p> <p>一人ひとりの居場所の確保、安心・安全を感じる環境を整えることを期待します。</p>	

(5)健康と安全	第三者評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理ができるよう支援している。	b
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6)性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>毎日検温を行って健康状態を把握し、異常が生じた場合には医療機関と連携して対応をしている。 各寮で性教育の担当職員を決め、幼児や小学生、中学生に発達や成長に応じた性についての教育を職員と共に行っている。 手洗いやうがい、洗顔など、身だしなみについて、子ども達が自分から進んで出来るよう支援していくことを期待します。</p>	

(7)自己領域の確保	第三者評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b
② 成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	c
(8)主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している。	b
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>箸、茶碗、コップ、水筒などは、個人の物を使っているほか、ゲーム機は子どもが小遣いで買っている。 学校の部活動以外にも園外のクラブ活動に参加することができるよう支援をしている。 子どもの発達段階に応じて、経済観念が身につくよう小遣帳を作成して金銭の自己管理を支援している。 成長の振り返りができるよう、アルバムを整理することを期待します。</p>	

(9)学習・進学支援、進路支援等	第三者評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>小学生は継続的な学習により基礎学力の向上を図り、中学生は自ら学習に取り組む子どもと意欲の低い子どもの差があるため、中学3年生に対しては受験指導を週1回実施している。 高校生は学習室や自室で各自学習をしている。 筑波大学生によるボランティアの学習指導は、毎回子どもの習熟度に合わせて行われている。 進路選択に必要な資料などを提供し、子どもと保護者を含めて話し合っているが、進路決定後のフォローアップや失敗した場合における具体的な取り組みを期待します。 アルバイトは認められているが、より多くの職場体験ができる機会を設けることを期待します。</p>	

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>暴力や問題行動が起きた場合には、行動を起こした子どもを別室に隔離し、落ち着かせてから話し合い、周囲の子どもの安全を確保するなどの工夫をしている。          子どもの状態を職員に周知し、児童相談所と連絡を密には図りながら対応策を検討している。          心理カウンセラーの資格を有する職員による心理療法の経過や結果を、ケース会議や寮会で報告している。          保護者の強引な子どもの引き取りには、全職員で施設内の安全を確保できるよう取り組んでいる。</p>	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>退所に当たってケース会議を開き、子どもや保護者の意向を踏まえて児童相談所や関連機関との協議のうえ、適切な退所時期を決めている。          子どもの特性を理解するための情報の共有化や、切れ目のない養育支援をすることを期待します。          アフターケアは大切なことであり、退所後も施設に相談ができる機会を設けることを期待します。</p>	

## 2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>家庭支援専門相談員を配置し、窓口になって家族等の相談や連絡調整をしている。          退所間近い子どもと話し合い、家族との関係づくりを積極的にしている。          子どもと保護者の関係回復に向け、親子訓練室を設けることを期待します。</p>	

### 3 自立支援計画、記録

(1)アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2)子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>担当職員が子どもと面接をして話し合い、子どもの個々の課題を整理して自立支援計画の原案を作成し、ケース会議で原案を検討して自立支援計画を作成するとともに、自立支援計画の評価や見直しは6ヶ月毎に行っている。</p> <p>子ども一人ひとりの養育・支援の実施状況を適切に記録するとともに、子どもや保護者等に関する記録はパソコンで管理し、職員で情報を共有している。</p> <p>子ども一人ひとりのアセスメントに基づいてケース会議を開催し、自立支援計画に反映させる体制を確立することを期待します。</p>	

### 4 権利擁護

(1)子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	a
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2)子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を配慮する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どものプライバシー保護に関する規程やマニュアルを整備して職員に周知するとともに、権利擁護委員会で話し合っている。</p> <p>第三者委員会を年3回開催して意見箱の意見や苦情受付報告を検討し、対応に努めている。</p> <p>子ども一人ひとりを尊重して養育・支援を行っているが、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況等を発達に応じて子ども一人ひとりに説明することを期待します。</p>	

(3)入所時の説明等	第三者評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4)権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5)子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	a
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
(6)被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
(7)他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設紹介の広報誌やホームページを活用して施設の情報を提供している。  入所時に養育・支援の内容や約束ごとについて、要覧や権利ノートを活用して子どもや保護者に説明している。  職員研修を通して、体罰を行わないよう援助技術の向上に努めている。  各寮に意見箱を設置するとともに、第三者委員を選出して苦情解決の体制を整備している。  被措置児童等への虐待等の届け出や通告に対する対応は、迅速かつ誠実に児童相談所に行っている。  子どもが様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心を育てる支援のさらなる取組を期待します。</p>	

## 5 事故防止と安全対策

(1)事故防止と安全対策	第三者評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>事故発生対応マニュアルや衛生管理マニュアルを作成し、職員に周知して定期的に見直しをしている。事故等の連絡体制として緊急連絡網を作成し、事務所に掲示している。</p> <p>防災安全委員会を設置して毎月防災教室を開催するとともに、防災マニュアルを作成して全職員で防災意識の徹底がなされている。</p> <p>子どもの安全確保のため地元警察と連携を図っているほか、毎月防犯安全委員会を開催している。</p>	

## 6 関係機関連携・地域支援

(1)関係機関等の連携	第三者評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
<p>(2)地域との交流</p>	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
<p>(3)地域支援</p>	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>児童相談所や関係機関、団体の機能や連絡方法を体系化し、職員で情報を共有している。</p> <p>幼稚園や小学校、中学校、高等学校、特別支援学校など、子どもが通う学校と連携を密にしている。特に小学校と中学校とは年3回連絡会を開催して情報交換を行ったり、登下校指導時に先生と子どもの様子を話し合っている。</p> <p>施設職員が町内会や子供会の役員、民生児童委員をつとめるなど、地域と連携を図っている。</p> <p>筑波大学生の学習指導ボランティアや施設OBの理髪ボランティア、児童の布団作りのボランティアなどを受け入れるなど、ボランティアの受入れ体制を整備している。</p> <p>子ども家庭センターや児童相談所、関係機関等と定期的に話し合う機会を設け、地域のニーズを把握するとともに、適切に対応することを期待します。</p>	

## 7 職員の資質向上

(1)職員の資質向上	第三者評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>スーパービジョン体制を確立し、ケース会議等においてスーパーバイズ機能を発揮している。施設内や施設外研修に参加する機会を設けているが、職員一人ひとりの研修計画が作成されておらず、職員一人ひとりの課題に合わせ、人材育成に資する研修計画を作成することを期待します。</p>	

## 8 施設の運営

(1)運営理念、基本方針の確立と周知	第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
(2)中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。            法人や施設の運営理念に基づく基本方針を明文化している。            運営理念や基本方針、事業計画は年度当初に職員に配布して周知を図っている。            施設の中・長期的課題である小規模化に向け、家庭的養護推進計画委員会を毎月開催して検討を重ねている。            事業計画の作成にあたっては、中・長期計画の内容を反映させ、職員が参画して作成するとともに、事業報告の中で年度毎の実施状況や評価、反省を行っている。            保護者や子どもにも事業計画を配布するとともに、十分な理解を促すことを期待します。</p>	

(3)施設長の責任とリーダーシップ	第三者評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	b
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4)経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査(外部の専門家による監査)を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設長は養育・支援の質の向上に意欲を持ち、職員への指導力を発揮している。 職員が指導計画の内容を検討したり、運営状況を分析して課題を発見したりしている。 施設長は業務の効率化に意欲を持ち、施設長や主任職員等を中心とした運営打合せ会を月2回開催し、運営状況や課題の分析を行っている。 人員配置やタイムカードの導入、時間外労働の問題などを検討している。 外部監査を実施し、その結果に基づいた運営改善が組織的に行われることを期待します。</p>	

(5)人事管理の体制整備	第三者評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6)実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>退職金制度や福利厚生センター、県民間社会福祉事業従事者互助会加入し、職員の福利厚生や健康管理を積極的に行っている。 施設長は年1回職員と面談を行い、就業の状況や意向の把握に努めている。 養成校と連携を図り、実習生を積極的に受け入れるとともに、実習生に施設の現状や子どもたちの生活を正しく理解してもらえるよう、職員は指導にあたっている。 実習生の受け入れに当たっては、養成校と連携はしているが、実習内容全般を計画的に学べるプログラムを作成することを期待します。 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が実施されることを期待します。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるように仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>日課に即した標準的な実施方法は文書化しているが、現在の職員体制に合った標準的な実施方法に定期的に見直すことを期待します。</p> <p>第三者評価結果から明確になった課題について、改善策や改善計画を組織として作成する仕組みづくりや、定められた評価基準に基づいて毎年自己評価を実施することを期待します。</p>	